

平成 30 年度  
「舞鶴版・地方創生についての市民レビュー」

報 告 書

平成 30 年 12 月

# 平成30年度『舞鶴版・地方創生についての市民レビュー』

## 市民の提案・意見のまとめ

10月13日に開催された「市民レビュー」では、市民の皆さんからたくさんの意見・提案、感想などが出されました。市民の市政への参加意欲をさらに高めるためにも、市がそれらの意見等をきちんと受け止め、可能なものは今後の施策に活かす方向で検討を進めていただくよう、お願いいたします。

平成30年12月27日

平成30年度「舞鶴版・地方創生についての市民レビュー」

コーディネーター 窪田 好男

### 【主な提案・アイデア】

1. 市の取り組んでいる広報・広聴活動や地域支援・公民館の活動を知らない。良い取組をしているので、市民に情報が届くよう、改善・工夫をしてほしい。
2. 市民と行政が気軽につながり、市民も参加できるSNS（フェイスブック、ツイッター、ライン、インスタグラム、ユーチューブ等）を更に利用し、市民への情報発信と市民意見の吸い上げに活用してほしい。
3. 広報紙の配布方法に工夫が必要。多くの人の目に留まる場所に設置したり、保育所や小中学校で配布してはどうか。
4. 自治会を中心とした共助は必要であるが、現状の自治会では限界がある。市は、時代にあった自治組織のあり方を若い世代を含め住民と議論する必要がある。
5. 共助の考え方、自治会の必要性や役割等について、市民に説明し、理解をしてもらう必要がある。

### 【意見・感想】

1. より良いまちづくりを進めるためには、「まちは市民も一緒につくるもの」という意識を持つことが大切。
2. 市民も、SNSを通じて、自らが感じる舞鶴の良さ・イベント情報等を積極的にPRすることができる。
3. 地域づくりについては、自治会だけではなく、さまざまな活動をする団体、地域にある企業や学校と連携することが求められる。
4. 市民レビューを通じ、舞鶴について多くのことを学べた。また、年齢層の違う方々の舞鶴に対する思いを聞くことができ、勉強になった。これを機会に自分たちが舞鶴市のためにできることを考えたい。

# 平成30年度『舞鶴版・地方創生についての市民レビュー』まとめ

## 《今年度の市民レビューについて》

### ◆概要

舞鶴版・地方創生を市民と一丸となって推進するため、「政策・事業のPR」、「市民の意見聴取」、「市民意見の事業への反映」「市民の市政参画」を進めることを目的に実施。

第1部では、市のこれまでの取組と今後の方向性について、多々見市長が説明。

第2部では、舞鶴版・地方創生の2つの重点施策の取組について市が説明したあと、市民審査員が意見交換と評価を行った。

### ◆参加者

◇ コーディネーター 窪田好男 京都府立大学公共政策学部教授

◇ コーディネーター補助員 2名

(京都府立大学大学院公共政策学研究科 大学院生)

◇ 市民審査員(19名)

みらい戦略推進会議 5名

(京都府北部地域連携都市圏振興社、舞鶴商工会議所、舞鶴自治連・区長連協議会、  
京都銀行東舞鶴支店、舞鶴市PTA連絡協議会)

学生3名(舞鶴工業高等専門学校、京都職業能力開発短期大学校、舞鶴YMCA国際福祉専門学校)

市民(無作為抽出での依頼)11名

◇ 事例発表者 FMまいづる 1名

◇ 傍聴者(50名)

◇ 事務局(17名)

### ◆内容

【第1部】舞鶴版・地方創生の挑戦(次期総合計画等について)多々見市長によるプレゼン

【第2部】市民レビュー

「交流人口300万人・経済人口10万人のまち」を目指す中での重点施策について

2つのテーマについて市民審査員による意見交換・評価。

●第1テーマ「戦略的広報の推進について～市民と市政の架け橋として～」

※事例発表(FMまいづる「FMまいづる活動紹介」の発表あり)

●第2テーマ「『地域づくり』と『人づくり』」

## 第 1 部 舞鶴版・地方創生について

### (1) 市長あいさつ

お休みの日にたくさんの方に集まっていただき、ありがとうございます。

舞鶴市の地方創生の取組について、私から説明させていただくので、ご意見などあれば、頂戴したいと思います。



### (2) 市長によるプレゼン

#### 「舞鶴版・地方創生の挑戦（次期総合計画等について）」（資料による）

##### 【市民からの意見・質問等】

- これからのまちづくりを考えるに当たり「少子高齢化」は避けて通れない問題。10 年先のまちづくりの方向性を説明していただいたが、舞鶴市がリーダーシップを取って北部地域を盛り上げる取組を是非進めてほしい。期待している。
- 市民がまちづくりについて意見をいえる場を設けていただいた。これからのまちづくりは行政だけでは難しいという話もあったが、いろいろな人の意見を吸い上げる方法を考えてほしい。

←（市長から）

京都府北部 5 市 2 町の連携都市圏の取組も 4 年目になる。総務省には新しい連携都市圏として認めていただけないかと思っている。

市内の事業者や市民にまちづくりに参画してもらうためには、市職員が外へ出て、地域の課題について話し合うことが重要だと思っている。

また、大学等の研究機関や最先端の民間事業者と地域の実情を協議するなど、総合的に取り組みたい。

- 舞鶴市の人口が年々減っているが、なんとか減少を止めないといけない。「交流人口 300 万人、経済人口 10 万人」の目標に向かって、取り組んでいただいていることもよく分かった。今後は、「交流人口 300 万人、定住人口 10 万人」という目標で、定住を増やしていただきたい。

←（市長から）

定住人口 10 万人は決してあきらめてはいないが、少子高齢化による自然減もある。

子どもには「進学などで一旦都会へ出て、帰ってくる場所がある。舞鶴には仕事もある。」ということを伝える必要があり、全中学 2 年生に講義している。

- 北陸新幹線の誘致について、今、どのような活動をしているのか？ LNG の舞鶴での実現の方向性について、どう思っているかを聞きたい。

←（市長から）

新幹線については、京都府の思いも確認しながら、山陰新幹線との接続という方向性に向けて取り組んでいる。全体の流れを見ながらも、今後 5 年以内に方向性を決めたいと思っている。LNG の実現については、相手もある話なので、しっかり考えたい。

## 第2部 市民レビュー 「交流人口300万人・経済人口10万人のまち」を目指す中での重点施策について

### 第1テーマ

#### 『戦略的広報の推進について～市民と市政の架け橋として～』

(1) 担当課による説明(資料による)

(2) 事例発表(資料による)

(3) 意見交換(市民審査員)

① 取組をより良くするためには

#### 広報全体について

##### 【良いと思うこと】

- 良い取組をされていると思う。いろんなところで広報広聴課の職員とお会いするので、がんばっておられると思っている。
- 広報活動は大事な仕事だと思う。災害が起きた時の広報活動は、誰もが必要だと思っている。
- 様々な取組(メディア)で発信されていると思う。
- 戦略的広報を目指して、市の広報はがんばっていると思う。
- マンホールカードをもらった。舞鶴の海に「おすい」という文字はギャグかと思ったが、そのくらい遊び心があっても良いと思った。
- メール配信サービスはとても役に立っている。

##### 【課題】

- 市は広報活動を頑張っているのに、一般の人がそのことを知らない。素晴らしい取組であるのに、もったいない。
- 市民ニーズの聴取(広聴)については、もう少し工夫できるように思う。
- 広報ツールを市民が積極的に手にとりたいと思わせるきっかけを作り、舞鶴に関心を持てるよう誘導し、情報を知ろうとアクションをおこす流れを作ることが必要ではないか。
- 市が「インスタグラム」や「フェイスブック」をしているのを知らなかった。

##### 【改善策】

- 期日前投票がショッピングセンターでできるようになり、選挙を身近に感じるようになったように、生活の中で無意識に目にする場所に、市の情報をPRする広報媒体を配置するのが良い。
- 広報媒体はたくさんあるので、広報紙に市ホームページのQRコードを掲載するなど、広報ツール同士を繋げると、情報が取りやすくなる。
- イベントでは、『#舞鶴』をつけてつぶやこうなどのポスターやのぼりを設置する。
- 現在はSNSで「～しました」という報告が多いので、特にイベント告知を行うためにツイッターを頻繁に利用してはどうか。(例えば、1カ月前、1週間前、前日など繰り返すイベントのお知らせをする)



- SNS は、市民と行政が気軽につながり、市民も一緒に作っている感じが持てるので良いと思う。
- メール配信も良いが、「LINE@」を使うのもいいと思う。
- 「ユーチューブ」や「ホームページ」での市民参加を進める。
- 広報の民間事業者との連携を進める。  
(地域情報サイト「まいぷれ」から市のメール配信の情報は見られるが、「まいぷれ」内に市役所のページを作り、どんなことを市がしているかを発信すると、市役所と市民の距離を縮めることができるのではないか。民間の広報媒体(CS、パレットなど)を利用するのも良い。)
- 市民主体の広報を目指すために、地元企業を巻き込む。
- 子どもにも分かりやすく情報発信すれば、子どもの時から舞鶴に興味を持ち、意見も言ってくれると思う。
- 駅のポスターやパンフレットをスピーディーに更新する。コストや手間はかかるが、インパクトがあり、まちに活気があるように見える。
- 広報広聴活動にはゴールはない。意見を吸い上げ、市政に活かすという永遠の課題に対してどう取り組んでいくか、工夫が必要。

## 「広報まいづる」について

### 【良いと思うこと】

- 広報紙は全ての世代に向けて分かりやすく工夫されている。
- 楽しく読ませてもらっている。

### 【課題】

- 文字が小さく(また文字が多く)読みづらさを感じるので、工夫できないか。
- 広報紙がどこでもらえるのか、知らない。
- 政策や施策があまり知られていないのは、広報紙が市民の手元に届いていないからではないか。
- 新聞への折り込みでは若い人には届かない。若い人への広報紙の配布方法に工夫がいる。
- 広報紙を今まで読んだことがなかったが、今回初めて読んでみて、素晴らしいと思った。広報紙を見るきっかけづくりが必要。

### 【改善策】

- 広報紙の配布場所をPRする。
- 広報紙の配布場所を変えたり、市内の学校、保育所で配布するなど、市民1人1人に届くようにする。
- 舞鶴ならではの自然(川、山、海)を広報紙でもっとPRすると良い。今は「モノ消費」から「コト消費」に変わってきており、豊かな自然の中で遊び、都会では味わえない体験ができると舞鶴市への愛着も湧くのではないか。
- 文字を大きくした方が見やすい。
- 「広報まいづる」を多言語でも発行する(ダイジェスト版で良い)。
- 「広報まいづる」に市民の意見を取り上げるページがあるとよい。
- 市民からの話題の提供を受け付ける。

## その他

- 防災行政無線は誰もが必要性を感じているが、男性の声では聞き取りにくい。できるなら女性の声で流してほしい。
- FM 番組情報をプレスなどに掲載する。
- 「FM まいづる」については、市民からのリクエストを募ったり、クラウドファンディング等ができないか。
- 市から補助を出して有名なゲストを「FMまいづる」に呼ぶ。
- 市民参加型のローカル TV の放送を行う。

## ② 市民ができること

- 「FMまいづる」がどんな放送をしているかを知ることから始めたい。
- 市民がイベントに行って、SNS 等で市民やイベントの広報に協力する。
- イベントの感想などを写真や動画を使って発信する。
- 情報発信されていることは多くある。市民がその情報などをうまく伝えるようにする。
- 知った情報を家族や近所の人に共有する。
- ハッシュタグをつけて発信する。
- 自分に関わりのある情報には関心があるが、市政等には関心が薄い。関心を持つように努める。
- 「広報まいづる」に関心を持って読む。
- 市外の人に対して、自分が感じた舞鶴の良さを伝え、舞鶴に関心を持ってもらうきっかけづくりをする。

## (参考：傍聴者の意見)

### ① 取り組みをより良くするためには

- 市民からの情報発信をサポートするという視点を導入してはどうか。(例：ツイッターを通じた市民の情報発信を市が推進する仕組み(コンテスト、表彰、発信委員の任命等))
- 「ツイッター」を利用する場合、地元の有名人や若者に人気のアカウントを調べて、ここぞという時に、人気のある人にリツイートしてもらう。
- インフルエンサーになる人物を探す。生み出す。(ゆるキャラ、クイーンまいづる、舞鶴出身の有名人等)
- 「ユーチューブ」を使う(プライベートビデオなど)
- SNS など双方向のツールによる意見の吸い上げを行う。
- 市長自ら「公式ツイッター」で定期的に情報発信をする。
- 町なかに目立つようなもので「広報」の存在を宣伝する。
- 紙面の制約はあるが、情報を再掲してはどうか。
- 小中学校に「広報まいづる」を配る。
- 高齢になると外出の機会も少なくなり、SNS の利用率も低くなると思うので、ラジオ等を通じていかに発信していくかが大切だと思う。
- 「FMまいづる」を聞く機会がない。駅などで常時「FM まいづる」を流す。
- 「FMまいづる」を若者に知ってもらうために、若者がラジオを聴くきっかけをつくった方がよい。防災以外のラジオの魅力を発信する。

## ② 市民ができること

- 「ツイッター」で一般の人が「舞鶴は最高なので来て！」と言うと影響力があるので、市民がそのような発信をしてもよいかもしれない。
- 市民が情報を発信すると、市の風景や食べ物、イベントなどを市民目線で発信できる（市外の方に向けて有効なPRになる）。
- エキストラとしてプライベートビデオに出る。
- 市政に対して関心を持ち、アンテナを張って自ら情報を得て考えていくことが大切。
- より良いまちづくりを進めるためには、「まちは市民も一緒につくるもの」という意識を持つことが大切だと思う。
- 高専とコラボしてラジオを作り、イベントを開催する。企業、地域との連携ができてよい。
- 自分の知りたいこと、興味のあることをどんどん提案する。「広報まいづる」に返信はがきをつけるとよい。または、ご意見用紙を置き、行政出先機関にポストを設ける。
- 自分が発信者となり、町内、近隣に市の取組や情報をPRする。
- メール配信の良さを伝える。
- 市民の知恵やコミュニティを活用して、人材探しを行う。
- 帰省時に舞鶴のお土産を持って帰る。
- 子どもの頃から広報に触れさせ、舞鶴のことを知らせる。
- 市民各々がSNSに情報をUPして情報を共有する。
- 「ツイッター」で「ハッシュタグ」を流行させたり、「ユーチューブ」でPRをしたりして、積極的に舞鶴をPRする。

## ③ その他

- 情報を知ってもらうための広報であるが、広報をしていること自体を市民が知らない。
- 市民に対して意見を求めることは良いことだが、その意見をどのように活用し、どのような取組に反映したかをしっかりフィードバックすることが必要。
- 新規事業等の情報を市に伝える流れを作る。市も門前払いせず、公共性の高いものは協働するという姿勢を持つ。
- 防災情報が高齢者に届きにくい。防災行政無線がほとんど聞こえないので、各家庭に防災ラジオを配り、「FM まいづる」からの情報が入るようにすべき。
- 市民レビューについても、市民に広く知ってもらい、関心を持ってもらい、参加してもらうことが必要。
- 「伝えたい相手」の気持ちや立場を考えて広報できるのが理想。
- 市民への情報提供や市民からの意見の聴取は、市町村に非常に重要。市民（情報弱者など）の状況に応じて、様々な媒体で情報を提供していくことが大切。
- 京都市内の若い世代は舞鶴のことを知らない人が多いため、都会の若い世代に向け情報発信をし、市外に舞鶴市を知ってもらうようにするべき。

## （４）市民審査員 評価結果

	① より力を入れて推進する	② 今のやり方で進める	③ やり方に工夫が必要
取り組みの方向性	8	7	5

（※コーディネーターも評価に参加）



## (5) コーディネーターによる総括

- ◇ 全国的に広報広聴活動は重要であると言われる中、さまざまな取組がなされている。コミュニティFMも注目されており、舞鶴でも「FMまいづる」が市民参加型で活動されている。広報紙は、必要な広報媒体として、舞鶴市では、その内容にも工夫を凝らして作られている。そうしたことから、概ね、市はよく取り組んでいるとの市民審査員の理解があった。
- ◇ 一方で、本当に届けたい情報を届けたい人に届けることや、広聴機能を強化することには限界もあることが分かったが、今後も丁寧に改善や工夫をして取り組んでほしい。
- ◇ SNSなど新しいツールを取り入れて、潜在的なニーズに合わせた広報活動をする等、試行錯誤をし、「より力を入れて推進」してほしいという評価となった。



## 第2テーマ 『「地域づくり」と「人づくり」』

(1) 担当課による説明(資料による)

(2) 意見交換(市民審査員)

① 取り組みをより良くするためには

良いと思うこと

- 地域振興策など、とても良く考えて取り組んでいると思う。



地域のコミュニティ形成のために

- 「共助」の考え方を初めて知った。地域ぐるみの助け合いというイメージだと思うが、自治会を軸に取り組みを考えてはどうか。
- 地域課題解決のために、さまざまな団体が取り組んでいるので、それらの団体同士の連携が取れるようにコーディネートしてはどうか。(地域運営組織)
- 住民がこれからの地域のあり方を考える場が必要(市は議論する場を作る)。
- 「共助」の考え方を市民に広報していく。
- 市は、理念(舞鶴市の方向性等)を市民にしっかり伝える。高齢化が進む地域では、住民だけでは活動が成り立たない。地域にある企業も雪かきや廃品回収などに参加している。各地域は、自分たちの地域の課題解決を市任せにせず、自分たちの課題として、どうしたら解決するか、目標を設定する必要がある。新たな移住者を増やし、転出を防止する取組をどうしたらいいかを考えなくてはならない。そのために、地域に関係する企業や学校にも協力してもらってもできると思う。
- 地域には、自治会、老人会、PTAなどさまざまな団体がある。それぞれが同じような取組を個別に実施しているのではないか。複数の団体が連携・協力して事業をやるなど、整理が必要な時がある。
- 大浦振興協議会のように、まずは住民が参加しやすい形で参加を促し、関心を持ってもらう。
- 地区ごとに年代構成や必要なものが違うので難しいと思う。基本は市民の「意識」の問題が根本にあるのではと思う。
- 地区によって課題は異なるので、しっかり現状把握をして課題を分析することが必要。大浦地区だけのアンケートではなく、せめて3か所ほどで調査を行い、データを集め、行政と自治会で話し合いをしてほしい。
- 若者が集まるまちづくり、同志のつながりをつくる。(若者会)
- 地域の活動に協力するにはその内容が楽しそうと思えるものであってほしい。例えば、若い人にとっては、子どもと遊ぶことはハードルは高くないと思う。
- 個の力が強くなっているので、地域住民が団結するようなイベントを多くする。

自治会の参加について

- 自分の住む地域は、道路拡幅を契機に新興住宅地ができて、住民が急激に増えた。その際、自治会に入ることに疑問を持つ新たな住民もいたが、話し合いを重ね、ルールや会費を見直す等の調整をする中で、新しい人との信頼関係が構築でき、今は地域が盛り上がっている。

- 地域の助け合いの組織が町内会である。町内会は、自分たちの力で明るく豊かなまちにしたいという思いで成り立っており、個人の意見ばかり主張してはうまくいかない。自治会長は皆の意見を集約し、責任を持って1年間支える大変な役割がある。

### 【課題】

- 小中学生の頃は、自治会の行事は楽しみなイベントであった。高校生以降は自分の生活が忙しくなることや、自治会での明確な役割もなくなることから疎遠になってしまう。
- 大浦地区では昔から地蔵盆や祭りなどの行事を自治会でしっかり実施している。近年子どもも減っており、今後、どうなるのか、心配している。
- 仕事等もあり、自分が主体となって一歩を踏み出すことはなかなか難しい。

### 【解決策】

- 自治会離れについては、コミュニティを活性化させる「つなぎ役」（例：まちおこし協力隊の受入れ強化やコンサルタント支援等）を充実させることが必要。それにより市民が町に愛着を持つきっかけができれば、自然と「人づくり」ができると思う。
- 自治会と市がもっと話し合いをする。
- 自治会のイメージが「高齢者と子どもによる地域づくり」。20～30代の人が地域のために活動できる取組や若い人同士が今後の自治会のあり方を考える機会があると良い。
- 新しく地域に住む人が、気楽に入れる自治会の雰囲気づくり。
- それぞれが参加しやすい形で参加を促すことが必要だと思う。
- 元気な高齢者が積極的に地域活動にかかわるしくみを考える。
- 自治会の負担軽減が必要。
- 町内会費がどのように使われているか、市民に理解してもらう。また、自治会の役割を市民にもっと理解してもらうことが必要。
- 時代に合わせた自治会の取組が必要。
- 昔ながらの「組分け」を現状にあった組に見直す。
- 問題意識を持つことから始めなければならない。きっかけづくりが必要。
- 町内の空き家を集会所にして、勉強会、体操教室等に利用してはどうか。

### 生涯学習について

- 公民館で生涯学習をしていることを知らなかった。
- 生涯学習やまちの先生の情報を広く市民へ広報する必要がある。
- シニアが講師となることで、活躍の場が広がり、生きがいも生まれると思う。
- 地区の公民館で色々な講座が開催されれば、元気な高齢者が増えるのではないかな。
- 生涯学習や社会教育は学校や民間事業者に任せて、公民館は地域の生活を守る役割が良い。

### ② 市民ができること

- 生涯学習等に、関心がある市民から参加し、一人一人が無関心層を減らしていく努力をしていく。
- 子どもに昔ながらの遊びを体験させる、その地域特有の行事等を体験させれば、知識や経験のある高齢者と子どもが触れあえ、地域コミュニティができる。
- 自治会の活動に積極的に取り組む。
- やりたい人が積極的に自治会に参加。やりたい人を増やさなければならない。

- 高齢者の積極的な参画。
- 自分が地域のために何ができるかを考えなければならない。

### ③ その他

- 民生児童委員の受け手が少ない。高齢者が増え、民生児童委員の負担は増えるばかりで、一人で担うことが難しくなっているため、補助員を付けるなど、民生児童委員の後継者を育成してはどうか。
- 町内会のあり方の議論が、あまりにも希薄すぎると思う。
- 「地域づくり」と「人づくり」は同時進行だと思う。分けては考えられない。
- 空き家や空き店舗を借り（買い）上げて、リノベーションして宿泊施設に活用できないか。
- 災害時の各地域での防災マップ・マニュアル作成・周知を行う。
- 共助のためには、住民が多い方が1人にかかる負担が減るので、ある程度の人数がいる方が好ましいと思う。

（参考：傍聴者の意見）

#### ① 取り組みをより良くするためには

- スポーツを通じた交流
- 自治会の必要性、メリット等を知らせる。特に1人暮らしの若者や高齢者の加入を促すことが必要
- 特に若い世代は自治会に入りたがらない。若い世代も入るメリットを感じられる仕組みを作り、地域住民の幅を広げることが必要。
- 「公助」がどこまで支援するのかを分かりやすく伝えていく必要がある。お金を出すだけではだめだと思う。
- 自治会の働き方改革が必要。ムダ・ムラ・ムリの排除。
- 皆、仕事や家庭があるので、PTA活動や自治会活動をボランティアで行うのは、時間を拘束され、気苦労が多くしんどすぎる。自治会活動を行うとバイト代程度でも手当を出すようにすれば、義務感やモチベーションが生まれてくるのではないか。
- 広域（例：5市2町）での市民・行政による情報共有や研修。
- 「共助」の持続のためにも、自治会を脱退する人を少しでも少なくするために、強制力も必要。共存する道を追求する。
- 各関係機関との強いつながりはできているか。（市民がボランティアで行っているサークル・団体などのこと）
- 安心・安全の為に人的セーフティーネットワークの構築が必要。
- 成功事例を他の自治会に紹介する。学校教育で「共助」をしっかりと教える。
- 大浦地区の中学生以上全住民アンケートすばらしい！その手法や内容を共有して市民参画をし、アップデートできるのではないのでしょうか。

#### ② 市民ができること

- 隣に誰が住んでいるのか等に関心を持ち、積極的に地域活動に参加する。
- 地域のリーダーとして、次世代の人を育てる。若い力が自治会に必要。
- コミュニティ活動に積極的に参加する。

### ③ その他

- 同じ「共通点」がある人たちをくっつけるイベントの企画を行政が進めてほしい。(家族形態・住民歴など)
- 災害発生時などには、自治会の共助は、非常に重要。自治会の必要性などを伝え、加入を促進していく必要がある。
- 仕事を持つ単身の世帯にとって、自治会活動や地域での行事への参加はハードルが高く、なかなか良い解決法を思いつかない。
- 地域づくりのプレイヤーを複数設けるのはいいと思う。
- 住みよい地域をつくるためには、自治会が地域を良くしたいという思いを持ち、自治会ができることはやるというスタンスが大事だと思うが、自治会に関わりたくないと思っている人が多いように感じ、難しい取組だと思う。
- 行政の力で、自治連合会に未加入の自治会を説得して加入させる。
- 単体の自治会から複数の自治会へとコミュニティを広げて考えてみる。
- 「人づくり」は、とても大切。人を動かすのは「想い」である。また、「想い」を発信できるのも人であり、表裏一体の関係だと思う。
- 近隣や住民や市外の住民を呼び、対談させる。多様な意見を取り入れる。

### (3) 市民審査員 評価結果

	① より力を入れて推進する	② 今のやり方で進める	③ やり方に工夫が必要
取り組みの方向性	7	5	8

(※コーディネーターも評価に参加)

### (4) コーディネーターによる総括

- ◇ 「共助」の必要性や重要性を感じ、その要となる自治会・コミュニティ支援とそのため必要となる生涯学習、社会教育や公民館活動も重要である。
- ◇ 個人は仕事や家庭で忙しい中、「共助」を進める変化を求めるのは難しくなっており、地域でがんばる人だけががんばるという状況にある。
- ◇ 自治組織が、ともすると今いる人にとって居心地の良い組織になりがち。新しい人と作り上げていく必要がある。そのためには、若い人や新しい人にどう関わってもらうのか、何をやってもらうのかを伝え、納得してもらうことが必要である。
- ◇ 新たな工夫をすることで、より多くの人々が「共助」の取組を楽しくできるようになるのではないかとの意見であった。
- ◇ 生涯学習、社会教育、公民館活動については、広報を行い、知ってもらうことが必要との意見があった。

## 全体まとめ

### (1) 市民審査員 アンケート結果

舞鶴市は、これからも住み続けたいまちだと思いますか？

とても思う	思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない
4	12	2	0	0

(※無回答1)

#### 【理由】

##### <とても思う>

- 日本海側の拠点都市として、まだまだ発展できると思う。自然、文化、経済のバランスが取れたまちづくりに協力したい。
- 自分の育った地域なので、より良いまちにしたいと思っている。
- まだまだ時代に合わせた「伸びしろ」がある。ここ数年活性化されていると思う。

##### <思う>

- 自然（山、川、海）が豊かで、食べ物もおいしい。都会（京都市・神戸市）ともアクセスが良く、住みやすい。
- 舞鶴が好きだから。
- 自分の業務上、市職員と関わる機会が多く、前向きな方が多い。自分の思い、信念を持っている人が多く、安心できる。
- 市外から就職で来て舞鶴の良さを知り、まちの魅力にどんどん惹かれていく。この町の魅力を市外の知り合いにも伝えるとともに、まちづくりに貢献したいと思う。
- 住みなれているし、その街がさらによくなろうと頑張っているから。
- 永住したいとまでは思わない（原発が近すぎるので）。
- 介護士になろうと思っている私にとって、就職先がたくさんあるから。
- まだまだ発展途上な所が多いが、それを見守っていききたいし、自分も舞鶴の発展に協力したい。
- 不便だけど、そこまで不便な街だと感じたことはない。市の職員が思っていたよりも熱心に市を盛り上げていこうとしているのが伝わった。協力していききたい。
- 住みたいと思うまちにしたい。
- 長年住みなれた場所である。最近舞鶴市は道路の整備等、発展しつつある。
- 自然に恵まれた所であり、感情を表に出さない人柄の舞鶴人に惹かれる。

##### <どちらでもない>

- 物価が高い。子育てや進路という意味では暮らしにくい。よそもの排除意識が強い。

## (2) 市民審査員の感想

### **【市民レビューについて】**

- ◇ 貴重な体験をさせていただいた。ありがとうございます。
- ◇ 的が広すぎて、どのようにまとめればよいかを考えさせられた。
- ◇ 事前の打ち合わせのやり方、ブレイクストーミングなども面白いと思う。良い機会を与えていただき、ありがとうございます。
- ◇ テーマが地味だったかもしれない。
- ◇ 色んな方々の意見が聞けたので勉強になった。舞鶴のことをより深く知ることができた。
- ◇ 新たなまちのことが知れた。この市民レビューを聞いて、意見がどう反映されるのかが分からなかった。
- ◇ このような会に参加させていただきありがとうございました。市民の声を直接届けることができるいい機会だと思う。
- ◇ 舞鶴市の取組について知ることができ、とても有意義だった。一方で、素敵な取組をしているのに市民が知らないという実態にも気づき、まちの良さをこれからは自分からもっと発信していきたいと思った。
- ◇ 舞鶴について考えるいい機会になった。
- ◇ 開かれた市政を実感できた。
- ◇ 舞鶴のことを少しでも知ることができたので参加できてよかった。
- ◇ 舞鶴について多くのことを学ばせてもらった。市民レビューを通して、自分たちが舞鶴のためにできることを考えていきたい。
- ◇ 全体的に、具体的な改善点を指摘する人が少なかったと思う。前置きや説明が長くて大事な話ができなかったのではないかと思う。
- ◇ もっと発言できればよかった。
- ◇ テーマが少し難しかったが、勉強になった。
- ◇ 年齢層もいろいろで、市をよりよくしたいと熱い思いを皆さんから聞かせてもらった。「共助」の働きを今一度考えたいと思う。
- ◇ 良かった。
- ◇ 本日のまとめ（結果）と進捗について知りたい。せっかく関わったので今後も舞鶴市について考えたい。今後も意見を伝える場があれば参加したい。
- ◇ 学生がしっかり意見を言えていて素敵だった。舞鶴の将来は明るい。

### **【市の取り組みについて】**

- ◇ 地域づくりは簡単にできるものではない。多くの人を説得するのは大変なのだと感じた。

## (3) コーディネーターによる意見の総括

- ◇ 地方自治は、近年その重要性を高めており、それを実現するためには、評価と住民参加を実施する必要がある。行政のやっていることを一度立ち止まって評価することで、施策や事業の軌道修正につながると言われている。
- ◇ 行政だけで政策を考えるのではなく、市民の知恵やアイデアを取り入れながら事業を実施することも言われており、舞鶴市の市民レビューは、舞鶴市がオリジナルでアイデアを出し実施している取組で素晴らしいものと感じており、大変有意義な議論になっていると感じている。

- ◇ 本日は、性別や年齢の異なるさまざまなバックグラウンドを持つ市民の皆さんが、活発に議論いただけたと思っている。
- ◇ まちづくりは何をするのか、どんな意味があるのか、がんばっている人がいるなど刺激し合って進めていくものであり、本日の議論はまちづくりを考える良い機会であったと思う。
- ◇ 市民審査員の皆さんには、これを機に、舞鶴市政に関心を持っていただけたらと思う。

## 閉会式

### 山口副市長 挨拶

市民審査員の皆さん、お疲れ様でした。活発な議論をいただき、市職員にとっては大変勉強になった。窪田先生には、スムーズな進行をしていただき、お礼を申し上げます。

傍聴の皆さんもありがとうございました。

本日の2つのテーマは非常に難しいテーマであり重要なテーマであった。

広報は、税金を使って行っているが、市民の意見をしっかりと施策に反映することが必要である。広報の基本的な評価基準は①認知度（施策が認知されているか）については、本日の議論を聞くとなかなか難しい状況であり、今後さらに取組を強化したい。②理解度（施策が理解されているか）③好感度（舞鶴市のやっている施策は素晴らしいと感じてもらっているか）である。このようなことを常に意識して広報を進めていきたい。

地域づくり・人づくりについては、人口が減少する中で、舞鶴に住んで良かったなと思っただけのよう、また若者が舞鶴で夢を実現できるようにしたい。

地域づくりは、「共助」、「自治会」、「学校との付き合い」、「敬老会」等さまざまな取組がある。今後は、学校と地域の触れあいができないか等を検討したい。

共助は、しかたなくやるのではなく、地域愛を持って行動するものであると思う。

愛と夢で人が動く、人が動くと世の中は変わる。変わるとマジックが起きると信じている。

市も一生懸命がんばりますので、市民の皆さんには市政に関心を持っていただきたい。ありがとうございました。